

項目	確認事項	届出内容	
基本情報	大学等名1(代表大学等)	武蔵野学院大学	
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ムサシノガクインダイガク	
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	131136	
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	埼玉県	
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学	
	科目名	インターンシップ	
	学部・研究科等名	国際コミュニケーション学部	
	担当教職員名・役職	森祐介 職員・兼任講師	
	受講者数実績年度	令和3年度	
	受講者数※インターンシップ参加者数	112	
	受入企業等数	8	
	受入企業等名	(株)アダムジャパン、(株)SAYAMA TEA STYLE、(株)茶商・横山商店、手打ちそば月岡、(株)ニソール、野口自動車工業(株)、(有)松澤園、武蔵野短期大学附属幼稚園	
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ	
		9.中小企業でのインターンシップ	
10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ			
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	地域企業が抱える課題を学生がグループで解決する活動を通して学びを深めるPBL(Project-based Learning)型の授業である。大学-企業間の連携だけでなく、Saya-biz(行政)にも協力いただき、産学官連携としてプロジェクトを実施している。Saya-bizには、テーマ選定の協議や、企業紹介、中間・最終報告会でのフィードバック等で協力いただいている。今年度は、学生が企画開発した商品を実際に販売し、利益を生み出したプロジェクトもあり、その利益を全額狭山市役所に寄附をし地域貢献に繋げている。		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい	
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)	
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容		
	1-3.上記回答内容に関する詳細	地域企業が抱える課題を解決するプロジェクトに学生がグループで取り組む内容である。企画案をプレゼンするだけでなく、実際に施策の実施までを行う。例えば、企業のSNSアカウントを作成し、運用したり、商品の企画開発や販売をしたりと、できる限りリアルな就業体験を積めるような設計としている。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい	
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している	
		7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している	
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容		
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年	
大学 学部3年			

②		大学 学部4年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	学部の2～4年生の混合クラスであり、各チームも学年混合の構成である。2年生は早期から職業観等を養うこと、また上級生は下級生に対してリーダーシップやマネジメント能力を発揮する機会を提供することを狙いとしている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	学生が記載する各シートや授業アンケートだけでなく、各企業担当者にも学生とのやりとりやプロジェクトの進捗状況について適宜ヒアリングし、双方向からプロジェクトの状況をモニタリングしている。
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	企業訪問時にスムーズな話し合いができるよう、プロジェクトシートに企業概要や質問事項をまとめ、プロジェクトスケジュールを立てる等の事前学習を実施している。また、企業にメール送信する際などは、送信前に適宜内容を指導している。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	授業の終盤に、各企業担当者を大学にお招きし、最終報告会として学生からプロジェクトについてのプレゼンテーションを行い、企業から講評、フィードバックをいただいている。また、経験学習の観点から、内省を重要視し、授業最終回に深いリフレクションを実施している。グループ内でピアレビューを行い、お互いの貢献度や「誰のどんな行動がグループにどのような影響を与えたのか」をギフトとしてフィードバックし合い、経験から多くの学びを受け取る設計としている。	

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	毎週の授業でグループの活動内容を「議事録」に、プロジェクトの進捗を「プロジェクトシート」に記載させ、随時Web上で確認している。また、自由記述のアンケートも毎授業後に実施し、それらを見ながらグループの関係性やプロジェクトの進捗状況の把握に努めている。加えて、授業中に全グループを巡回し、状況等をヒアリングすることでモニタリングを実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	社会人基礎力の12の能力要素について、ルーブリックを用いて5段階に分解し、授業前後の変化を定量的に把握できるようにしている。また各能力要素についてどのような変化があったかを自由記述させ、定性的にも学習効果を把握できるようにしている。その他、リフレクションシートには、「社会人基礎力」以外の授業目標である「ICTスキル」「キャリア観」についての授業後の変化を自由記述させ、教育効果を確認している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	2021年前期（4月～7月）の全15回の授業（90分）で実施した。
	5-3.上記回答内容に関する詳細	毎週木曜日の全15回の授業（90分）の中で実施した。授業の初期に、学生が企業訪問したり、企業担当者に大学にお越しいただいたりして、企業の状況や課題について説明をいただき、その後は、各グループがフィールドワークや企業とのやりとりを続け、課題解決に向けての施策を検討し、実行した。授業時間外でも各グループでの打合せや、企業とのやりとり、各施策（Instagramの撮影、投稿）等を適宜実施しながら活動した。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	

	6-3.上記回答内容に関する詳細	プロジェクトテーマについては「地域や企業が本当に困っている課題か」、「学生の強みが活きやすいか」、「3ヵ月で到達可能か」等を考慮の上、各企業、行政と協議の上で決定している。また、中間報告会では、Saya-biz（行政）に対してプロジェクトの進捗についてプレゼンテーションを行い、改善点等のフィードバックをいただく機会を設けている。授業後には、行政、企業とともに振り返りを行い、改善点を洗い出し、次年度に向けてPDCAを回している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://portal-k.musashino.ac.jp/Kyoin/web/Syllabus/WebKogilchiran/UI/WSL_Kogilchiran.aspx">http://portal-k.musashino.ac.jp/Kyoin/web/Syllabus/WebKogilchiran/UI/WSL_Kogilchiran.aspx</a>
問い合わせ先	大学等名	武蔵野学院大学
	担当部署名	事務局
	担当者役職名	事務職・兼任講師
	担当者氏名	森 祐介
	電話番号	04-2954-6131
	メールアドレス	<a href="mailto:yusuke.mori@u.musa.ac.jp">yusuke.mori@u.musa.ac.jp</a>